国立国会図書館　　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

戀乃若竹

上

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

吳竹おうなの節ごとに世の中ある。男と
女お情のこと。上古も未世のそれと
甚しき竹の園生なる上川
の方より。井の在か
脚の掩屋弁。世を
十ぐまでぞ。憩てふ道お傳へまく。迷ふ
思ひおもてまゝ。鄙棚の煤竹。其下

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

涼を楽しむなんど。喜怒哀楽に外恋の
事。恋の情よりも。なおざりの物かたり。
古代の詩哥も。多くは恋の情を含
めり。実より行そのの。情況本の
種を栄〳〵。そもそも華を耕〳〵
の題を亭の若竹と
とす。昔も名誉自称
す。若き盛り男女の奇縁。共に

千代さぐく冬の日。
契るの其中ふかき。
すゑの。三九主人と相談する。
著述りのなり〳〵
天保四年癸巳春王

寛江舎主人識

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

於角が妹分　歌吉

歌妓　於角

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

寒しさ紛れね太鼓の音さえうら腹さ
いや第一の彩中々見立風俗美イ
あが生よさ「モシ具合々々の浅妙な
入ぐどせへまだば。抹茶がらとなづく
て。おれ大きなれまーと二人ざ
「そうけでござんねい
村之進「何さな緩慢なことだ

どざる。コレく戸塚のおイの
「へイ一とのおまへ町
「これハおくり山をおく
海下ぐ。さあ本撓町ぐどざるへ。
「相承知一揃糸のおかねのとおりサまで
二丁町とや「いや
が吹屋町でござりまする。
「ハテ山屋を市村座と
ます「へ左様よ

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

書くありける狐なりつのるでござるる」と
ちく人入らッしゃいまセトやがて内へ
ふうふひふうふとそこへ美妻をそうべさうろ押へうんでやれる
なりて。狐なく。おくやくをそやくあらくべ
おぞんじまくしてくらが。芝居くとうくおそぎ
あそびをうくう。すぐことへ人也妻内のと
ましくうやつけておきこうくこと
ましくらが只今うまりまセうとろのへ狐の為
ろこうろう。まる

なるぐら　村「アレ申ス
の旅装をごらんなさ
い。田沢氏の門客よう
じん。梅ん方をたづ
ねて居るへ　竹次郎「いろ〳〵な
風俗ぐ〵これで居るの
あるこゝろよし〳〵もめら
すとよいようだで
ござりまする　松「こゝく
ものをおろし〳〵やれ　波「上を
やものがゆきません　へゝこゝ
あの女形さん

ろんとやのしや　竹「あれハ絵角ぐ〵どざ
ります　鈴「ム〳〵お絵師の
きハ物云でござりまする
波「ハゝあの名ゞト　竹「あるばゝあの
きハ物云部と中
ろく「モシあの物云ハ
ゑんとあ川さまでござりますか　竹「あゝ
もし旅人のお方に
絵角がありやさの
絵角へ三浦屋四郎兵衛とのもの　抱

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

げんろくごねんの姫様でえ騒ぎのさ。その湯殿辺よ。里中とのの人がおろく覗き通ることところが。姫の素顔うつことのできそれをいとん迷惑よおもうく。ゆのを付へとしくおようく。なまや廊中の男の大騒動ぐち。あることそよさ。そこでこちあよ番屋の建まち町ぐを送り物子本とのことも

その時そうぞ始りけるうよ。ゆ六とのの人へぎとその人のようよ。んまり男がようのう。それぐ「お角さんへあげ巻とのの字よも。姫氏名とゆぐうう。そのほりで書と上続きんどのづさとのの字と角とのの字を書きまたれん。そうしてこんるよ。竹屋さんがゆへるれべ。さーづあお角さんぐ「や

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

ごとくの字かいおろし
うづさ
上絵とのうつし士「コレ〳〵めまいる絵を
中も字のごく上つ絵下つ絵とのうつしてよ黒くして上絵とおっしゃるとこれ上絵の方で
げんや 名人「モシ ざんねん人めうつしてよこざいますそうじゃうのう
ございますそうで 竹「そうおそうでございますそうでございますそうでございます

のさ　竹「なり
なりやうでござりまするのさ。」
竹「ほゞ
竹「ほゞ
竹「ほゞ

ぎまも。さてきさこそるぶらぬ士「とま」サ主の
竹及弟のそばイようくおのあぐグ
ろうよ。ろ男のそ
を居らずとも。とも
どうでも田舎の
あへがこと
どうんしやのま
ふへだり這入
でぎまたうら。
第二ノ七

南さん具合のそうへちんと。「ヲイ
ぎとへでもそやりのサト
だりのうう
ろ「ハイとあよ
まーくそらう牛仙さん方うへぎのま
せんう医者「ハイ
ろ「おぎやうさの
ろよ牛仙「ハア

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

行次郎が。ぶらぶらとひやかすのようす。
うるさき男もあるものを。思ひ居るが
その紙の行次郎が孫の上よおもらくる
をこそく。おもろねそろとおとりトひや
んと云ふ顔つきを。みやく「モシヘトいぶかなりてめうさう
気そんなの。そんぞお捨ひなさるまいそろ竹「イエ
なもりやしません。が外うく見が悪く

まうろうさうものがござりまうく。そのお
方へ参りてそろ「ヤまされば。そうく八上
らうまいまねねのお。そろくのお猫さまの
でござりまうく。歩いおまへあげ
まうやうまうくべ。さやうまうそろ「アイ
まうくべトひやうくおやうさまよ。そろ「とうくへ
うさうまうく「とまへ

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

させる。とまさちろうと金を
この形まのトゆきそんきろうと「おぢやそうさる
ちろとこらくへおなりあそび仕牛仙さる
げ新よるくくトおく千る男えよ和ろ
ちの表のちまよえ出る。高てこるをを
今ぞちる。ひとむよひとぐるれ。そのぶと
すまどそろよ。屋ぐる雑を権ひる。
そやおろの太鼓とまる人まぐろぐ

押のく。
まえくぞ別まる。

第二套

そ作者ハ。
ぎも。名前おをこれをあてろ。その
役の目先ちつきそ。夕おろく
ひねもなく。
文よなの雑ともろねば品ろく

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

いろの紙を書つけ、そこ〳〵一枚の紙を張り、良ダ下邸の地橋より汐こうる。六韜三略の巻こうの宝もこゝに備よ。如をかゞさ。ひと〳〵人るさ。ひと〳〵見こべ。ひと〳〵これ申こぞして毎夜愛こうも風雅こうの会こうるこうぞ。ござり〳〵こうと。ろうるこう彼談妓お角八。竹沢弁こうこう

のを通へ〳〵。より〳〵こ伸こ立ちそふこを送り。まこ〳〵こゝにさるぐ〳〵来ぶ女ぢこく。おのれのあどをうまき口説くれども。竹次郎八右こ左こ。なろ〳〵こきいらへも甘ごれが。ひとり胸をそこ〳〵ける。一日竹次郎浅草の人形町に用向果てのち。堀門の女戸川とゝいるお果亭に立こるこ

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703
ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

がの宮こよ。ゐ。ゐ。ゐ

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

たのよ。あまつも浮世紀へ人に用
ひらまる慾さんざらやあるめへ。
けまでですも年ざらう。ナニ
そちらこそなる役人の女ごぜる
乱でもそのごさらう 三「そのをりの。
そんな戯ごやうれへヨ。そして今を
も奴こといへこ女ご男嫌ひの者
なぜぐごぜんすをきあこ女ごぜ 竹「三さん

おまへの浮世をしてそんなさる
がまへ。あらうさ。ゆの女
おれんごとがあ
お父さんのそこ
やうが其うりよ竹さんのるのをとナ
そまこのまれこをれとのみあサ。其所で男
さんとまれこのが竹「男が女とんので

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

ぢらう。そのおんごとのやうに
うちきの 三「ヲットこう〳〵
おつく居なさる。ハテのんきな竹「ざ
まと 三「笑ひ久子のよふな竹「ごひきう
三「ハゝゝゝそのとほりおろかな怪しの
見 とう「モシゆるしてへ
せんぜ 三「そよサこのア眉毛をおき
てくらうやアるねんと見 竹「おれ

だらう 竹「勿論さ 三「そんなら
見ませう 二人とも
角のうちを。せ
よと 種々なのひきよせ
共笑ふだらう
ちやうと 竹「よりは
へや 宝「よい入つて
山のおぐらうし
時 竹「おゝこわ。

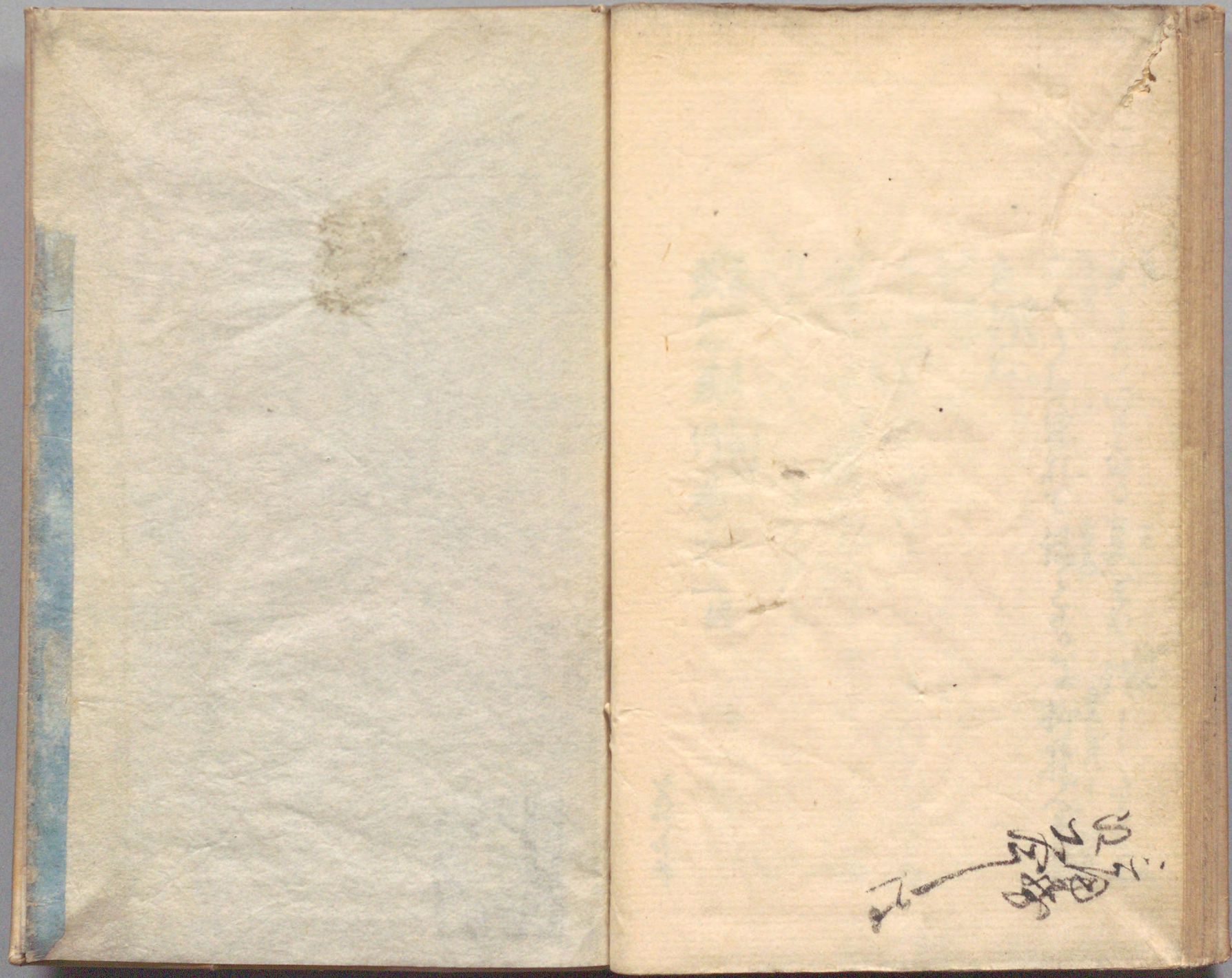
国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

208
9
703

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用



国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

208
特別
9
703

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用

国立国会図書館　恋若竹 3編 208-703

ガラス使用